ありば ヒューマンドキュメント

障害の理解や動作分析のプロとして、選手がベストを尽くせる環境づくりを心掛けている。

理学療法士

[入井 裕太（いりい ゆうた）]さん

理学療法士として、リハビリの先にある「日常」を支える

理学療法士として八反丸リハビリテーション病院に勤務し、今年で14年目を迎える入井裕太さん。副士長という立場で後輩の育成や病院運営にも携わりながら、患者さんのリハビリをサポートする現場の最前線に立っています。「身体機能の回復はもちろんですが、患者さんが以前の生活に戻り、自分らしく過ごすためのアドバイスを何より重視しています」と、退院後の生活を見据えた支援を行っています。

障害者スポーツのトレーナーの原点は、学生時代からの恩師である上司から声がかかったことがきっかけでした。サッカーに打ち込んだ少年時代を過ごした入井さんにとって、スポーツと関わる仕事には興味がありました。そして、初めて参加した全国障害者スポーツ大会で目にしたのは、選手の挑戦を支える真剣なトレーナーの姿。理学療法士という専門職こそ、障害者スポーツの現場で必要とされていると思い、トレーナーとして歩み始めました。

選手たちの、「最高の動き」を後押しする

平成28年から、全国障害者スポーツ大会にコーチ兼トレーナーとして参加している入井さん。大会や練習会では、選手のコンディション調整から応急処置、熱中症対策まで、選手がベストな状態で競技に臨める環境を作っています。意識しているのは、選手とのコミュニケーションです。「信頼関係を築き、正確な情報を引き出すことが正しい判断に繋がる」と考え、対話を何より大切にしています。

過去には、大会初日に怪我を負い、翌日の競技への出場が危ぶまれた選手が、適切な治療とテーピングにより翌日の競技に無事出場し、メダルを獲得したこともありました。それは、選手本人に加え、家族などの支援者とトレーナーが相談を重ね、本人の症状に応じた的確な対応ができたからだと感じています。選手とともに困難を乗り越えた瞬間は、トレーナーとしてこれ以上ない喜びだったと振り返ります。「理学療法士は動作分析のプロ。だからこそ、障害者スポーツの現場でもっと力を発揮すべき存在」と入井さんは語ります。

今後は、「先輩方が築いてくれた障害者スポーツとの関わりを絶やさず、後輩に魅力や必要性を伝えていきたい。それが教育の一環となり、患者さんを支える力になると信じています」。

八反丸リハビリテーション病院では、スタッフが病院外でも経験を積めるよう障害者スポーツ大会への協力を後押ししています。現在は鹿児島大学の学生とも連携し、多世代で選手を支える体制も整ってきました。病院でのリハビリを、その先の人生やスポーツという挑戦の場へスムーズに繋げていく。この「橋渡し」の役割を組織として追求し、選手の一番近くで障害者スポーツの可能性を広げていきます。

一人ひとりのコンディションや環境に合わせた最善のサポートを提供する。

病院の仲間を中心に編成された車椅子バスケのチームで、障害者スポーツにも取り組んでいる。

医療法人　慈圭会　八反丸リハビリテーション病院
〒892-0852　鹿児島市下竜尾町3-28
電話 099-222-3111　FAX 099-226-8945